

back numbers



「果敢断行」

社訓に果敢断行とある。我々は常に之を肝に銘じて努力しつづけなければならぬ。

抑々果敢である為には、熟慮が先行せられなければならないし、熟慮の裏付には、平常から、忠実に事に当り、その事の核心を確実に把握し、以て自己の正邪善悪の識別・判断が、如何なる時、如何

なる場にあつても、当を得ているという自信と確信とに充ちたものでなくてはならない。

この自信、この確信を身につけるのに、我々が常に自己を磨き経験を豊にし、日々新にする研究心を具有していかなくてはならない。

この素養が、有事の際、遲疑逡巡する

所なく現われ実行せられた時、はじめて之を果敢断行というのである。

■社報「中建」1962年9月27日発行

オイスカ地球環境再生 植林フォーラム2006

2006年8月2日(水)～8日(火)
東海防災株式会社
工務部 清水 要介

し宿泊地パヨンボンに向け出発しました。途中パレテ慰霊碑を視察しました。キランでは、現地のオイスカスタッフが迎えてくれました。彼らの所有する森林再生された山を見学しました。山は現在再生過程であり、植林された場所やまだ手付かずの場所、土砂崩れがあった場所に分かれていました。昔、この山は熱帯林でしたが、日本への木材輸出が始まると見る見るうちにハゲ山になり、乱伐の結果ハゲ山は洪水災害を受け、壊滅状態になったそうです。これを機に12年前から森林再生の植林活動で毎年のように苗木を植えて続けているそうです。植林された木は、マホガニ、ユーカリ、ジュミリ1ナ、アカシア、マンギューボなど、比較的成長の早い木が植えられていました。その日の夕方、近くのアリタオ町長を表敬訪問しました。



去る8/2～8/8まで一週間フイリピン・ヌエバビスカヤ州スエバビスカヤ州へ植林フォーラムに参加してきました。ヌエバビスカヤ州は、おむね山岳地帯で起伏の多い位置にあります。今回の参加者は、総勢34名です。早朝5時にオイスカ高校を出発し中部国際空港セントレアから約4時間掛けてマニラ空港に着き、バスでルソン島を北上しカバナツアン市内にあるホテルへ向かいました。2日目、ルソン島を更に北上

3日目、世界遺産のライステラス(棚田)を見学、「天国の階段」と呼ばれる美しさに魅了されました。

地元のイフガオ族がこの古代文化を維持して暮らしていました。現地の建物は、木造1階建て、主にブロック造り1階建ての家が多かったです。ブロック積みの工法はうま目地になる工法で壁を起こしてありました。木造よりブロック造の方が安く建てられるそうです。夕方、ヌエバビスカヤ州の知事を表敬訪問しました。

2006オイスカ植林フォーラムレポート全編は、弊社ホームページにて掲載

平成18年度中村建設 災害防止協議会定期総会

2006年9月7日

平成18年度災害防止協議会定期総会が、さる9月7日「ウエルサンピア浜松」において、会員会社48社(内委任状292社)の出席を得て開催されました。

定期総会の初めに、平成17年度の安全成績優良事業所(6業者)及び、同優良社員(12名)の表彰が行われ、青島会長から表彰状と副賞が授与されました。

次に「平成17年度事業報告及び収入支出決算報告」、「平成18年度事業計画(案)及び収入支出予算(案)」他の審議に入りまして、満場一致で承認されました。

来賓挨拶として、浜松労働基準監督署長山本正光様から「建設業労働災害防止



特別記念講演は、NPO法人都市環境研究会会長(日本大学名誉教授)三浦裕二様に「循環都市江戸の舟運」という演題でお願い致しました。講演に先立ち、今回の講演内容は、三浦先生が皇太子殿下にご教授されたものと同じ話であるとの紹介が、竹村専務よりありました。江戸時代の河川の整備状況及び外国と比較して、都市計画を含み、市民に親しまれる水辺の環境づくりに関して、私たちはもっと考えなければいけないのではないのでしょうか、先生は話されました。とても興味深く聴かせていただきました。

最後になりましたが、定期総会が無事終了できたことに対して御礼申し上げます。

